

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105636
法人名	有限会社 公昌会
事業所名	グループホームひめやまの里
所在地	松山市山越3丁目6番15号
自己評価作成日	H27年9月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・何よりも「私の家族だったら！」と、強い気持ちを持ちながら支援に取り組んでいます。
 ・交通量の多い国道沿いではあるが、緑もあり桜の季節にはピンクの花びらがいつの間にか風にのってきたり、鳥のさえずりも聞こえます。
 ・正面が病院ということもあり緊急時などは医師や看護師が24時間対応してくれ安心した生活を送る事ができます。
 ・交通の便が良く家族がホームへ立ち寄りやすい。又近くにはスーパーが多くあり買い物しやすい環境です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

毎日のように利用者に会いに来られるご家族が2～3名おり、食事介助に来ていたご家族は、同じテーブルの利用者に、名前を呼びながら和やかに話をしていた。利用者の誕生日会の日程は、事前にご家族と調整して決めており、半数以上の利用者は、ご家族と一緒に誕生日を祝っている。毎月の行事予定表は、他書類と一緒に送付してご家族も参加できるよう案内している。2ヶ月に1回発行する「ひめやま新聞」は、簡単な文章に利用者の笑顔の写真を切り貼りして、行事や取り組みの様子を報告しており、「あれはまだですか？」と聞かれる等、ご家族も楽しみにしている。ご家族の要望で子供用のスリッパを玄関に用意している。職員の口調や声のトーン等について指摘があった際には、職員会議で改善に向けて話し合った。
 職員それぞれに「車イス点検係」「買い物係」又、共用空間の清潔保持についても役割を決め、責任を持って取り組む仕組みを作っている。誕生日会のお祝いケーキは、担当になった職員のアイデアで毎回手作りしており、又、「ひめやま新聞」は、担当した行事別に個々に手書きして作成している。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームひめやまの里

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏名 森 涼子

評価完了日 平成 27 年 9 月 15 日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 尊厳の保持・自立の支援・自己実現(基本的人権の保護・家庭的な生活・生き甲斐のある生活)の理念のもと介護している。事業所理念を皆が見える所に掲示し毎日の介護につなげていくよう努力している。月一回の職員会議でも再確認している。 (外部評価) 事業所理念は、開設時、職員で話し合っつており、玄関や各ユニットの共用空間に掲示している。管理者は、職員会議等で利用者のケアについて話し合う際には、理念に立ち戻りながら検討するよう話している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 季節ごとに施設行事を実施し、地域の方も招待しふれあいができるようにしている。地域のボランティアによる出し物(琉球太鼓、ミニコンサート、フラダンス)など日常的に皆で交流している。又運動会、お祭りにも参加している。 (外部評価) この一年、職員の紹介等による地域のボランティアの受け入れを活発に行った。幼い子どもが琉球太鼓を打つ姿を見て利用者は感激したようだ。事業所行事時には、近隣の方にも案内しており、7~8名程の参加がある。利用者とかかわることで、顔を覚えてもらう機会にもなっている。近くの保育園の運動会の日には、利用者数名で応援に出かけた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議で報告していると同時に入居者にも参加して頂くことで認知症の方の理解を深めてもらっている。又身近に相談できる窓口があることも知らせている。見学の対応も随時行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 二ヶ月に一度開催しており入居者の家族にも参加して頂けるよう声かけに努めている。市の職員や包括支援センターの職員、地域の方々も交え、ホームの状況、行事の報告等をし、意見を聞きサービスの向上に生かしている。毎回テーマを決め堅苦しくならない楽しめる場になるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 第一回の会議時、ご家族から「会議を気楽に、楽しく」という意見があり、行事と併せた会議となっている。夕涼み会やクリスマス会と併せた会議時には、7家族ほどの参加がある。地域からは6～9名程の参加があり、時には、介護保険等について相談がある。会議では、利用者の現状や日々の活動報告等を行い、参加者から意見を聞き取っている。今後は、民生委員の参加予定がある。管理者は「参加者と一緒に勉強する機会を持ちたい」と話していた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議には市職員、地域包括支援センターの方にも毎回来て頂き報告している。又運営の対応について適宜相談している。</p> <p>(外部評価) 松山市社協の要請を受け、10月から月2回介護相談員を受け入れている。初回は、3名の方の訪問があった。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関は日中いつでも出入りできる。入居者の安全の為しっかり見守りをしている。又職員間で常に声かけし合っている。優先順位を考え介護するように日々試行錯誤している。職員会議でも身体拘束の正しい知識を学び理解に取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 日中、玄関に施錠はしていない。利用者の状況によって、ユニット出入りに鈴を付け職員が見守っている。足元が危ない方でベッド脇にセンサーマットを設置し、対応しているケースが複数ある。職員会議時に、身体拘束になる事例を提示して皆で話し合いながら勉強している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待が見過ごされることのないように注意を払い防止に努めている。身体的虐待だけではなく言葉の虐待についても毎月の会議で話し合っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在成年後見制度を利用している方はいないが今後の為にも知識を深めていく予定としている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者が契約を結んだり、解約をする際は内容を十分に時間をかけ説明し理解・納得を図っている。契約後一部をお渡しし、不明な点がある場合は再度説明し、納得していただいている。改定の際は家族に来て頂き口頭説明し同意書を必ずとっている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を置いている。意見、不満などは受け入れ職員間で話し合い、その結果は家族へ説明している。又家族面会時には入居者の様子を詳しくお伝えし家族の要望も聞きそれを日々のケアに組み込んでいる。	
			(外部評価) 毎日のように利用者に会いに来られるご家族が2~3名おり、食事介助に来ていたご家族は、同じテーブルの利用者に、名前を呼びながら和やかに話をしてきた。利用者の誕生日会の日程は、事前にご家族と調整して決めており、半数以上の利用者は、ご家族と一緒に誕生日を祝っている。毎月の行事予定表は、他書類と一緒に送付してご家族も参加できるよう案内している。2ヶ月に1回発行する「ひめやま新聞」は、簡単な文章に利用者の笑顔の写真を切り貼りして、行事や取り組みの様子を報告しており、「あれはまだですか?」と聞かれる等、ご家族も楽しみにしている。ご家族の要望で子供用のスリッパを玄関に用意している。職員の口調や声のトーン等について指摘があった際には、職員会議で改善に向けて話し合った。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	<p>毎月の職員会議で職員の思い、会社の思い、提案等話し合いを設けている。内容は記録に残し参加できなかった職員も分かるようにしている。</p> <p>職員それぞれに「車イス点検係」「買い物係」又、共用空間の清潔保持についても役割を決め、責任を持って取り組む仕組みを作っている。誕生日会のお祝いケーキは、担当になった職員のアイデアで毎回手作りしており、又、「ひめやま新聞」は、担当した行事別に個々に手書きして作成している。</p>	
			(外部評価)		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	<p>運営者は職員と話す機会を設け業務や悩みを把握している。公平な形で職員を判断して給与・賞与の支給をしている。個々の労働条件に合わせて希望を聞きながら勤務表作成や配置をしている。又健康診断を実施し体調管理には十分な注意を払っている。</p>	
			(外部評価)		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	<p>研修の情報を提供し参加費は会社負担。なるべく多くの職員が受講できるよう、シフト調整も行っている。研修後は報告書を提出してもらい、他の職員がいつでも見られるようになっている。新人が入社した際は十分に時間をかけてアドバイスが受けられるシフトになっている。</p>	
			(外部評価)		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	<p>研修で知り合う同業者との関係を大切にし、意見交換をしている。又運営推進会議などを通じて交流の機会を設けている。</p>	
			(外部評価)		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	<p>入居前に事前調査を行い本人・家族と面会し、困っていることや不安なことをよく聞き、安心感が持てるよう心がけている。スタッフ全員が事前調査に目を通しその人が安心できる介護ができるよう努めている。又禁忌事項などの把握もしておく。</p>	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査で時間をかけお話を聞くようにしている。家族とよく話し合い、介護についての要望、不安に思っている事を聞き理解するように努めている。当ホームに入居して良かったと安心していただけるように本人と家族、ホームとのより良い関係作りに努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居の際ホームの見学をして頂き、本人の意向と、家族の意向を聴取している。必要としている支援をくみ取れるよう努力しケアプランに生かせるようにしている。医療関係とも連携し対応ができるようにしている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 本人の暮らしを一番に考え安心して暮らせるよう、入居者同士が和やかにすごせるよう、職員が間に入り話をしたりしている。自分ならどうしてほしいか考え、行動している。日常生活の中で体調に応じて一緒にできることを見つけてしている。 (洗濯量、食材チェック、作品作り等)	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 職員と家族とのコミュニケーションを持ち色々話し合っている。季節ごとの行事参加の声かけをしたり、ホーム内で変わったこと、伝えておくべきことができた場合には、家族へ報告、連絡をし詳しく伝える事に努めている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居者の知り合いの方の訪問や郵便物などがある場合には家族に了承を得た上で本人と交流が持てるよう支援している。外出や食事会などできるように、面会時間の制限を設けていない。 (外部評価) 地元からの入居が多く、近くに住む幼なじみの訪問等もあり、行事時には同じ席で一緒に楽しめるよう配慮している。幼なじみの方のご主人の送迎で、一緒に同窓会に参加されたこともある。近くのスーパーへ買い物に出かけた際に、懐かしい知り合いに会うようなこともある。散歩中に、周りの風景を見て懐かしんだり、昔の思い出を話す方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 毎日レクリエーションを行うことで入居者同士交流が持てるようにしている。入居者同士が居室を行き来されお話ししたり、リビングに誘うなどしている。又食事の声がけもして下さる。職員が間に入り会話を繋いでいる。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 家族とは同じ地域で暮らしていることが多いのでホーム以外でも偶然お会いすることも度々ある。本人の暮らしぶりを聞いている。サービスが終了してもこれまでの関係を大切に何か相談があればお手伝いできるように努めている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 希望を言える方に対しては聞き取りをしたり、毎日の介護の中でコミュニケーションを多く持ち発言や表情などから、今、今後の思いや意向、一番大切にしていることの把握に努めている。言えない方には家族に聞いたり生活の中での楽しみを把握し本人本位の生活ができるよう努力している。ケアプランを作成し日常生活の支援に活かしている。 (外部評価) センター方式の様式を用いて、できることやできないこと、できそうなこと、暮らし方の希望等の把握に努めており、職員の気付きも書き込んで情報収集している。年1回更新して介護計画につなげている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査や家族からの情報をもとに細かい部分まで把握するように努めている。本人との会話の中からこれまでの暮らしや覚えていることを聞き、把握に努めている。以前からの習慣は継続できるよう環境を整えている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の申し送りで一人ひとりの健康状態などを確認し合っている。又バイタルチェックを行い一人ひとりをよく観察し心身状態の把握に努めている。マイペースで生活される方、家事手伝いを率先される方など個々の力等に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎月の職員会議で個々の報告・問題点について話し合っている。本人・家族の希望、又主治医にもアドバイスを頂き計画に反映している。職員等の意見などを取り入れ課題の共通認識を持つことで介護計画を作成するよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、担当職員を中心に職員で話し合っ作成し、月1回の職員会議時に利用者一人ひとりのケアについて話し合っている。3ヶ月に1回職員で話し合い「目標の達成」「サービスの実施状況」「サービスの満足度」を × で表し、モニタリングと評価を行っている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎日の個別の介護記録でバイタルや体調の変化を誰が読んでも分かるよう詳しく記録している。それをもとに毎月の職員会議、カンファレンス時にケアプランに基づいたサービスが実施できているか、新たな課題等も話し合い介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>かかりつけ医へは定期的に受診・リハビリを行っている。その他の歯科などは往診していただけるようになっているが、その他の科には家族に協力して頂き継続して治療が受けられるよう援助している。必要な買い物等もスタッフが行うこともあり柔軟な対応がとれるように心がけている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>地域のボランティアを招いてホームで楽しむ機会を設けている。琉球太鼓、民謡、ミニコンサート、幼稚園への訪問、町内の夏祭りなど地域と交流し楽しんでいる。重度化により外での行事参加が減っているもできるだけたくさんのお入居者と参加したい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 定期的にかかりつけ病院へ受診、定期薬の処方を受けられるよう支援している。受診時には普段の様子が分かるようにバイタル表や介護記録を持参している。又受診以外でも往診や電話での相談や説明にも応じていただき支援している。家族の希望で受診する際は協力をお願いしている。	
			(外部評価) 現在3名の方は、ご家族が付き添い入居以前からのかかりつけ医を受診している。その他の方は、隣接する母体病院に職員同行で受診している。利用者の状態によって往診に来てくれたり、訪問診療を利用している方もある。調査訪問日の昼食後、職員は薬袋の日付とご本人の名前を声に出して読み、確認してから内服のサポートをしていた。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 看護師が管理者でもある為、常に連絡が取れるようになっている。日常的な一般状態を注意深く観察し健康管理を行っている。又職員は日常生活に変化があれば記録に残し様子が分かる様にしている。困ったことや不安なことを相談できるような関係作りに努めている。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時・退院時には医師・看護師・家族・ホーム職員と情報交換し医師からの病状説明等にも同席させていただいている。今後のことについても三者で相談できる場を設け適切な治療が受けられるようにしている。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りや重度化したときのアンケートを入居時にとっている。重度化した場合や終末期になった時にはもう一度家族と話し合うようにしその時々の方々の家族の気持ちの変化にも対応するよう努めている。医師・看護師・ホームスタッフで症状の変化の度に協議も重ねている。	
			(外部評価) 利用契約時、半数以上のご家族が「事業所で最期まで」と希望している。ご本人にもそれとなく希望を聞き取っており「痛くないように」等の希望がある。この1年半程で3名の利用者の看取りを支援した。看取り支援時は、かかりつけ医や看護師、ご家族、職員間で情報共有することを心がけ、看護師資格を持つ管理者がすぐに駆けつける体制を作った。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時対応マニュアルを作成し病院・医師・看護師へ直ぐ連絡がつながる様になっている。入居者の毎日の体調や変化について細かく申し送り、記録している。電話のところに連絡方法が分かる様に書いている。応急手当や初期対応については個人差があり勉強会が必要。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に防災訓練を実施している。入居者・地域の方も参加され、電話のかけ方や消火器の使い方も消防署の方に指導を受けている。近所の方が協力してくれるようになっていく。スプリンクラーや消防署へ直通電話などが設置されている。	
			(外部評価) 6月には、消防署の協力のもと、夜間の火災を想定した避難訓練を運営推進会議と併せて実施した。携帯電話から119番通報を行い、利用者も職員の誘導で防火扉の向こうまで避難し、地域の方には利用者役を体験してもらった。消防署の方からは「繰り返し訓練を重ね、命を預かっているという意識を持ってほしい」とアドバイスがあった。近隣の方は「いざという時には、駆けつける」と言ってくれている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 入居者の生活暦や家族構成など色々な面を十分に把握して、個々に応じたケア・対応を実施している。個人情報取り扱いにも十分注意し、職員採用時に必ず誓約書を交わしている。	
			(外部評価) 利用者の誕生日会には、他利用者一人ひとりからお祝いの言葉をもらう場面を作っている。又、誕生日を迎えたご本人からも、みなにお礼の言葉を述べる場面を作っている。100歳を超えた利用者も複数おられ、「100歳まで生きてこれたのは皆さんのおかげ、感謝します」等とお礼を述べられた。チラシ等でくす玉作りを続けている方の作品は、各居室の入り口の上部に並べて飾っている。又、利用者みな洗濯物たたみをご自分の役割として、一手に引き受けてくれている方もいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) あらゆる場面で言葉かけしている。些細なことからも本人への選択肢を尊重できるよう心掛けている。難聴で意思疎通の困難な入居者には筆談で行っている。スキンシップをはかり、表情等から読み取り対応に努めている。申し送り等で情報を共有するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) レクリエーションの時間等で入居者から何がしたいのか聞い たり自己決定を尊重している。リハビリ体操や大勢でゲーム など楽しむこともしている。個々で塗り絵や折り紙などの作品 作り、新聞、本を読むなど自由にも過ごしていただいている。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 定期的に美容師に来てもらいさっぱりしている。個々の馴染 みの化粧品や髪留め、スカーフを身に着けられている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の感想等をお聞きしリクエスト食・季節のものも取り入れ ている。準備や片付けなどは個々の能力に応じた部分で職 員と一緒にしていただいている。(じゃがいもの皮むき・もや しの根っことり、コップの片付け等) (外部評価) 業者が決めた献立で食材が届き、利用者と材料をみながら事業所 で調理している。利用者の希望を反映したリクエストメニューや行事 に合わせた食事等は、食材から買い物に行き手作りしている。調査 訪問日の昼食後は、ご自分で下膳したり、職員が用意したお盆に 食器を重ねる利用者の様子が見られた。毎食後、全利用者が口腔 ケアを行えるよう支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 個別に食事量を調節し、一人ひとりに合わせてお粥、刻み、 ミキサーにしている。又食べられない食材等は職員全員が 把握できるように掲示している。水分補給は食事以外にも飲 用する時間をとっている。体重測定も定期的に行っている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを実施している。一人ひとりに合わせて職員 が見守り、介助している。又定期的に義歯の洗浄を行い口 腔内を清潔に保っている。本人の希望や口腔状態に応じて 歯科往診も行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表で個々の状況を確認し時間毎の声かけ、誘導を行いトイレでの排泄ができるように支援している。日々の改善を心がけ一人ひとりの排泄パターンを理解し対応している。トイレは場所が分かるように張り紙をしている。 (外部評価) ご自分でパットの後始末をする方もあり、トイレに新聞紙を用意している。ご自宅で夜間のみポータブルトイレを使用していた方は、同じように使用できるよう用意しており、使用時には職員が安全に配慮して手助けをしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医の指示による下剤も使用しているが水分摂取量の確認や食事内容の見直しもしている。個々にあった運動や体操を取り入れ便秘予防に努めている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 状況に応じて機械浴・一般浴・清拭・足浴などを行っている。毎日は入浴できないが順番に公平に入浴できるようにしている。又入浴前にはバイタル測定をし安全に入浴できるよう注意している。入浴時間は午後になっており希望時間は反映できていない。 (外部評価) 利用者個々に週2～3回入浴できるよう支援している。浴槽のまたぎが難しい方は職員が二人対応で支援しているが、状況によりシャワー浴にしたり、1階にある併設デイサービスの機械浴を利用して支援している。ぬる湯が好みの方や頭髪の洗い方等、こだわりのある方にも合わせて支援している。お好きなシャンプーを持ち込んでいる方もある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 個々の睡眠状況や起床時間も考慮し、適宜午後に臥床する時間も確保している。夜間は照明・空調・温度の調整を行い気持ちよく眠って頂けるよう環境作りをしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 入居者一人ひとりが内服している薬の内容を理解し用法・用量を守り内服していただいている。症状の変化があった場合は看護師・医師に報告し指示を仰いでいる。又日付け・名前を確認し飲み込むまで見守り確認している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日リハビリ体操をした後入居者の希望を聞き読書・塗り絵・折り紙・トランプ等楽しみ気分転換ができるようにしている。又洗濯物を畳んでもらったり、食事の準備などできることは一緒にしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 行事として気候のいい時に外出を取り入れている。家族にも協力して頂き外食や買い物に行かされている。近所の庭木や草花などを見せてもらい気分転換できるよう支援している。	
			(外部評価) 初詣は、護国神社にお参りし、春のお花見は、ご家族にも案内して奥道後に出かけた。事業所近辺は商業施設が多く、回転寿司や大型スーパーに外食や買い物に出かけている。今月はドーナツショップにお茶を楽しみに行く予定がある。下着やお菓子等、個別の買い物希望は、近くのスーパーを利用して支援している。	職員は「重度の方をもっと外出させてあげたい」と思っている。さらに、介護度が重度になっても、地域とつながりを持って暮らし続けられるような支援に工夫してほしい。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員と一緒に買い物に行き、支払いも職員と一緒にしている。皆との外出時も本人が欲しい物を買われる。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) いつでも電話が使用でき、本人からの希望があれば職員がかけて本人に代わったりしている。手紙も本人が書いたものを家族に見てもらいよければポストに投函している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>一日の大半を過ごされるリビングには壁画や入居者が制作される月ごとの作品を貼り季節の移り変わりを感じていただけるような空間作りをしている。エアコンなどで温度や湿度にも注意し快適に過ごせるように努めている。テーブルや洗面所には花を飾ったりしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>事業所は、市街地にある3階建てビルの2・3階部分に位置している。ユニットの入り口は、和紙張りの格子戸になっている。2台ある食卓テーブルの上に小花を飾り、窓際のテレビの前にソファを配置している。壁面には、利用者と職員でつくった貼り絵や、習字作品を飾っていた。調査訪問時は、テーブルに座り、個々に漢字ドリルや塗り絵等を行っている様子が見られた。職員と一緒にしりとりをしているユニットもあった。昼食後ソファに座り、新聞のテレビ欄を見る利用者の姿があった。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングのソファに座ったり、椅子に座って雑談を楽しまれたり、仲の良い者同士でお話ができるよう場所作りをしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ホームでベッドとチェストは用意している。他は自宅で使用されていた使い慣れた物を持参していただいている。家族が花や人形、家族写真等を持って来られ、それぞれ居室は個々の生活にあった場所となっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>猫がお好きな方の居室は、猫の写真や縫いぐるみが飾ってあり、クリスマスに職員がプレゼントした猫のイラスト入りの枕カバーを大事に使用していた。100歳を超える方で、居室に使い慣れた鏡台を持ち込み、ご自分でお化粧をしている方がいる。又、ご家族がホワイトボードを持ち込み、ご本人への伝達事項を書いている居室もあった。すべての居室にご家族や事業所が準備したカレンダーを掛け、職員が季節を話題にしている。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>エレベーターや要所には手すりが設置されている。ホーム内は段差もなく安全に過ごせる。居室のベッドも高さが入居者により合わせられるようになっている。居室の入り口には目線に合わせた高さで名前を大きく貼ったり、トイレも大きく表示したり、できるだけ自立できるよう工夫している。</p>	